聖母の小さな学校 通信

京都府教育委員会認定フリースクール
聖母の小さな学校
2025 年
3 月 1 日発行
第 283 号

不登校という事実を生きた実り、それは希望！

梅の花便りが届く頃となりました。平素は聖母の小さな学校の教育に格別のご理解、ご協力をいただき、感謝申し上げます。

2 月は思いがけず寒波に見舞われ、予定していた「京街道を歩く」（細川幽斉の頃の舞鶴＝田辺藩から京都への道）が雪のため延期になり、事前に歴史を学び期待をしていただけに、残念でした。3 月の修学旅行＝広島平和学習に向けた様々な事前学習をしています。折しも、昨年、日本被団協がノーベル平和賞を受賞されました。生徒たちは 1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分に落とされた人類初の原子爆弾について、その時何が起きたのか、その後の人々の苦しみの実態、自分と同じ年齢の子どもたちの残した作文、人間の生活や命を根本から破壊してしまう戦争や核兵器について、広範囲に時間をかけて学んでいます。今、生きている人間として、このことを考え、又、被爆された人々に心を向け、被爆の実態を想像する力を養いたいと思います。2 泊 3 日の修学旅行ですが、学んだことをその土地に訪ね、数多くの遺構や慰霊碑に触れ、一瞬にして命を奪われた十数万人の人々の実相を心に焼き付けたいと思います。最終日には、被爆伝承者の講話を聞きます。良い修学旅行になることでしょう。

他方、ウズベキスタン文化学習も継続して学んでおり、いよいよウズベキスタン語の本格的な習得に入りました。Assalomu alaykum（アッサローム アレイクム＝おはようございます、こんにちは、こんばんは）Rahmat（ラフマート＝ありがとう）Tanishganimdan xursandman（タニシガニムダン フルサンドマン＝お会いできてうれしいです）など、楽しく学んでいます。外国を知る、学ぶ、を続けていますと、その国への興味、その国の人々と交流したいと思う気持ちが自然に湧いてくるようです。そこには、「できる・できない」とか「優れている・劣っている」という比較を越えた人間一人ひとりの独自の力が動いているのが見えます。

「不登校に出会った私の事実」を積極的に捉え、受け止めるという事は、学校に「行ける・行けない」を越えた「私自身の姿」を見る事につながります。そうした「私自身の姿」には、あらゆるものが詰まっています。よく見ると、「なかなかいいではないか」というようなところがあります。また、見たくない部分もあります。その双方を丁寧に見ることが、「不登校という事実を生きる」という事ではないかと思います。多くの生徒と保護者が見たくないところを時間をかけてみる心を養って、正しくとらえられるようになる、そこで自分自身の現実に触れ、「紛れもなく私である」という事を受け止め、本当の意味で安心する、「嘘ではない自分に出会い、ほっとする」ということです。嘘ではないところに「希望」が作られていくように思います。生徒も保護者も、その「嘘ではない自分たちの足場」を得て、生き生きと、これでもか、これでもか、と行動しておられる姿を見ます。それを見ると、どんな時も、どんな状態でも、諦めることはないと思えます。また、3 月には、高校進学希望者の府立高校入学試験があります。準備を整えたいと思います。今月もよろしくお願いいたします。

2/25 調理実習
「スパゲッティ・ナポリタン」

＜今月の主な行事＞

4 日（火）華道教室	15 日（土）2024 年度進級式
5 日（水）・12 日（水）陶芸教室	16 日（日）学年末保護者会 13:30～
9 日（日）～11 日（火）修学旅行	21 日（金）2024 年度修了式

《　余禄　》

ローマ教皇フランシスコは 2019 年の来日の折、日本の社会について次のように述べられました。「過度に有能さ、生産性、成功のみを求める文化が若者に自分を諦めさせ、孤独、絶望に追いやり、孤立させ、『生きる意味』を失わせている」と。孤立ではなく、手を差し伸べ、互いに助け合い、共に生きる社会を作りたいと思います。